

大和市子ども読書活動推進会議 会議記録 (要点筆記)

会議名	平成30年度 第3回 大和市子ども読書活動推進会議	
開催日時	平成30年1月12日(金) 15:30~17:00	
開催場所	大和市文化創造拠点シリウス6階 601講習室	
出席状況	出席委員 出席委員	<推進会議委員> 伏見暢子 今宮智子 鶴巻宏子 田野康志 伊禮利奈 松村佐和子 小林寿子 佐藤明子 中園加奈 藤田莉映子 古木幸一(順不同・敬称略)
	欠席委員	<推進会議委員> 阿部きふゆ 川村佳織 佐々木雅子 (順不同・敬称略)
	市側出席者	<事務局職員> (3名)
	図書館出席者	<指定管理者> (1名)
	傍聴人人数	0人
公開非公開の状況	■公開 □非公開 □一部非公開	
審議又は検討経過及び結果	<p>1 あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>委員の出席状況の確認</li> <li>資料確認</li> </ul> <p>2 議事</p> <p>(1) こども読書わくわくプランの評価について</p> <p>◎事務局より、資料1-1、2を元に評価手法の考え方、表記の変更点について説明。</p> <p>質疑・意見他</p> <p>会) ご説明いただいた中で感想、意見があれば。</p> <p>委) 評価手法のやり方は理解した。わくわくプランにおける幼稚園や保育園の読書環境の充実について、具体的な施策の展開が見えてこない。市内に保育園は60園ほどあるが、読書環境をどのように充実させていくつもりなのか。</p> <p>事) プランの一番分かりやすい取組でいうと、団体貸出の充実が該当する。</p> <p>委) 公立保育園は60園中4園しかないので、公立保育園のみへの団体貸出では、全く市内の保育園を支援しきれていない。まずは保育園の実態を把握して、具体的な読書環境の手助けとして何ができるのかを考えていかなければならない。</p> <p>事) 前計画の期間中では、公立保育園にしか団体貸出ができなかった。現計画の期間においては公立保育園に限らず、他の課や図書館と連携し、支援したいと考えている。</p> <p>委) 1年に10園のペースで増えていることもあるので、ぜひ検討していただきたい。</p> <p>会) 計画の文言に書くだけでなく、実際に何ができるのか皆で検討していきたいと思う。委員の皆さんはそれぞれ現場にいるからこそ分かることも多い。何か他に意見があれば。</p>	

委) 本に身近な環境は、ボランティアとして活動している場所で見当たらない。シリウスでもボランティアとしてイベントができれば、シリウスから家が遠い子がシリウスを知ったり、集まったりするきっかけになると思う。

会) 垣根を作らずに、お手伝いできることがあるならば、ボランティアにお声をかけていただきたい。

会) 議題1の前の会議を踏まえた、評価の変更については良いと言うことで。

委) 了承。

## (2) 来年度以降の推進会議の活動について

◎事務局より、資料2をもとに説明し、項目4の「次期任期における取組についての検討」の意見確認。

### 質疑・意見他

会) 次期任期に推進会議としてやってみた方が良いと思う取組について、ご意見があればお願いしたい。

会) 先ほどの委員の話聞いて思ったが、民間の保育園にお手伝いに行くなどの取組を探ってみても良いと思う。

委) ・3年間活動してみて現場の声はとても貴重であると感じたので、地域の代表も委員になれるなど、次期任期の委員候補を広く募集してほしい。

・幼児教育や塾、通信教育に携わられている講師の方を呼んで、子どもの置かれている現状を聞いたり、出版社の児童書担当の方を講師として呼び、人気の本や一般の本との違い等を聞いたりできると、今後役に立つと思う。

・推進会議の中で、グループワークでも良いので、フリートークの時間を設け、委員同士が読書について語れる時間をとってほしい。

委) 今は子どもの世界にスマートフォンが入ってきていて、子育てにもスマートフォンを活用する時代。この会議では読書の推進について話し合っているが、社会全体は全く逆の方向に動いている。それを把握、認識して考えていかないといけない。

委) 小学校1年生の時点で既に読み取りの力に差があると感じる。読書についてのアンケートで、自ら読書に時間を割く子は1割ほどしかいない現状が分かった。近隣の保育園や児童ホームに毎月読み聞かせに行き、本と接する時間、機会を増やせたら良いと思う。

委) 学校によって地域のボランティアも受け入れる所があれば、PTAのボランティアのみを受け入れる所があるなど、それぞれの学校で方針が大きく違う。子どものために思いボランティアに行こうとしても垣根が高くて難しい。子どもに自ら本に興味を持ってもらいたいのので、課題図書の間頭だけ読みに行くなどできれば良いと思う。

委) 保育園や児童ホームの子達にはまだまだ支援が行き届いていないと思うので、行政だけでなく、ボランティアの力でも充実させていければと思う。

- 委) 保育園では読み聞かせの時間は取っているのですが、通園している子より、未就園児の方が手が行き届いていないと思う。そういう子達も頭に入れてほしい。
- 委) 子育てに関わるNPOの人やコミセンの指導員、サークルの人等と、情報交換をして読書活動の支援をしていければ良いと思う。
- 委) ・それぞれの学校に合わせた支援をするために、学校の実態を把握する等の仕事をする部署を設置すれば、上手く回りそうな気がする。
- ・シリウスの来館者数について、全体的に利用者の人数が増えているのではなく、特定の利用者の利用頻度が増えているだけではないのかと思う。
  - ・音楽とは違い、本は再生装置なしに楽しめるものだったのが、今は電子書籍等の再生装置が入ってきて、楽しみ方が大きく変わった。時代の変化に合わせて「スマホ時代の子ども読書」というサブテーマを掲げて、追及してみる必要がある。
- 委) 小学校で子どもたちを見ていて、少なくとも朝読書の15分間はとても集中して本を読んでいるので、自ら本に触れる機会を増やし、本をもっと好きになってもらいたい。

(3) その他について

◎副会長から、第1回イベント部会参加報告。

- 副) 今年の市民まつりは5月12、13日に行われる。都合がつく方は参加いただけたらと思う。また、読み聞かせで使用する大型絵本の希望があれば、事務局へ連絡してほしい。

質疑・意見他

特になし。

以上